

新型インフル対策

ウイルス熱処理装置

社5の
開同
共

兵庫県中小企業家同友会の会員による共同受注・開発グループ「アドック神戸」は、高温の熱を活用し、空気中の病原菌やウイルスを殺滅・不活性化する装置「空気殺滅

装置アドックR-3600」を開発した。新型インフルエンザ対策向けとして病院や福祉施設での利用に期待している。同装置は2005年、近畿経済産業局の支援制度に認定され、鳥インフルエンザを想定して開発を始めた。北斗電子工業(西宮市)と森合精機(明石市)、ツインテック(同)、奥谷金網製作所(神戸市中央区)、藤製作所(稲美町)の5社が開発し、明花電業(神戸市中央区)が販売を担当する。

同装置は空気を取り込み、熱交換器で260度の高熱処理した後、急冷

して空気を出す仕組み。処理能力は1立方メートル1分という。性能試験を神戸大学大学院の片岡陳正准教授が実施。新型インフルエンザよりも熱に強い胞子を空気中1立方センチあたり100万〜1千万個を投入し、装置を稼働させると、胞子がゼ

口になったという。北斗電子工業の中野浩一社長は「秋冬にかけて第2波が予想される新型インフルエンザ対策などに役立てば」と話している。(段 貴則)